

福田片岡遺跡

— 中世の道と物流 —

会期：令和6年
1月13日(土)～3月10日(日)

1 福田片岡遺跡

福田片岡遺跡は、たつの市誉田町福田に所在します。太子竜野バイパス建設に伴う発掘調査の結果、弥生時代～江戸時代の遺構が発見され、建物群や道路など、特に中世の遺構が数多く見つかりました。この一帯は法隆寺領播磨国鶴荘にあたり、伝来する中世の荘園絵図には、元寇に備えて整備された九州と京都を結ぶ筑紫大道（中世山陽道）が記されています。絵図と対比した結果、遺跡から見つかった道路はこの筑紫大道と考えられ、絵図の記載が考古学の成果から実証されました。

2 遺跡の変遷

I期 — 弥生時代中期 —

調査区の北東端で弥生時代中期の竪穴建物と土坑が見つかり、林田川中流域の弥生時代中期における集落の一端が明らかとなりました。

II期 — 弥生時代後期～古墳時代前期 —

中央(C)地区において谷状地形と配石遺構と大量の土器が出土しています。

III期 — 奈良時代 —

南(S)地区の下層で、平安時代以降の荒河井堰より以前の水路が見つっています。溝からは8世紀後半の土器が出土しました。

IV期 — 平安時代後期 —

南(S)地区では水田が広がり、人や牛の足跡と犁跡すきが見つっています。それ以外にも、木棺墓や掘立柱建物が見つっています。

V期 — 平安時代末～鎌倉時代初頭 —

この時期から北(N)地区で、区画溝に囲まれた掘立柱建物群が見つかり、さらに南(S)地区では井戸が見つっています。

VI期 — 鎌倉時代 —

北(N)地区の区画溝に囲まれた掘立柱建物は建て替えが行われ、中央(C)地区や南(S)地区で井戸が見つっています。

VII期 — 室町時代前期 —

鎌倉時代初頭に掘削された井戸を埋めて、道が造られています。この道は「筑紫大道」と考えられ、この道を挟んだ両側で掘立柱建物群が多く見つっています。この時期が福田片岡遺跡の最盛期にあたり、中国産をはじめ、備前焼や常滑焼など他地域のやきものが出土しました。

VIII期 — 室町時代後期 —

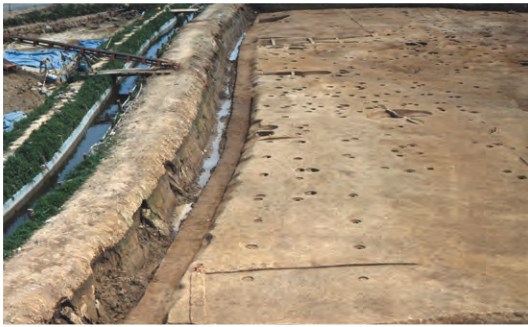
中央部分に大きな区画を造り出す方形堀が巡り、堀で囲まれた建物群が見つっています。「筑紫大道」はこの堀に壊されているため、この時期には、道路としての機能が失われていたと考えられます。

IX期 — 江戸時代以降 —

周辺の水利から、特に自然堤防が高く形成されたところでは石組井戸、低地には木組み井戸が造られました。



平安時代末～ 鎌倉時代初頭



N地区 掘立柱建物 (SB20・21)



N地区 溝 (SD3044) 出土
土師器カマド・羽釜・鍋・小皿、須恵器鉢



N地区 土坑 (SK3065) 出土
土師器小皿・羽釜、須恵器甕、
備前焼甕、瀬戸焼おろし皿



N地区 土坑 (SK3065)

鎌倉時代



南(S)地区

- III期 奈良時代
- IV期 平安時代
- V期 平安時代
- VI期 鎌倉時代
- VII期 室町時代
- VIII期 室町時代
- IX期 江戸時代

平安時代 後期



S地区 墓 (SX01)



S地区 墓 (SX01) 出土白磁碗・皿

福田片岡遺跡 中世の遺構の変遷

室町時代前期



N地区 土坑(SK11)出土
土師器皿



N地区 墓(SK25)



筑紫大道



N地区 墓(SK25)出土
土師器鍋、須恵器鉢、常滑焼甕

室町時代後期



S地区 溝(SD01)出土
土師器羽釜・鍋、須恵器碗、
備前焼播鉢・壺・徳利



C地区 磚敷土坑(SK03)



S地区 石積状遺構(SD01内)



S地区 石積状遺構出土 一石五輪塔

室町時代
室町時代後期
室町時代末～鎌倉時代初頭
室町時代
室町時代前期
室町時代後期
室町時代以降

福田片岡遺跡 弥生時代～奈良時代の遺構の変遷



N地区 土坑2土器出土状況



N地区 土坑群



N地区 竪穴建物跡2



N地区 土坑2出土土器

弥生時代中期



- I 期 弥生時代中期
- II 期 弥生時代後期
～古墳時代前期
- III 期 奈良時代



C地区 土器群と配石遺構

弥生時代後期 ～ 古墳時代前期



C地区 土器群出土状況



C地区 出土土器群

